

一週間で一字卒業が目安

前日に読んであげた漢字カードを次の日にお子さんに見せて「これ何て読むんだっけ？」と聞くと、おそらくほとんどのおさんは正しく答えられるはずですが、丸暗記が得意な幼児にとっては、そのくらい訳もないことなのです。

ただ、一度で正しく読めたからといって「ああ、もううちの子は、この字を覚えてしまった」と判断して、次から次へ新しい漢字を教えるというのはいけません。

幼児期の子どもは、確かに覚えるのも早いですが、せっかく覚えても使うことのない記憶に関しては、忘れることにかけてもまた天才的です。ですから、覚えた漢字を言葉としてしっかり定着させるためには、読めたから終わりではなく、何度もくり返し読むことが大切なのです。

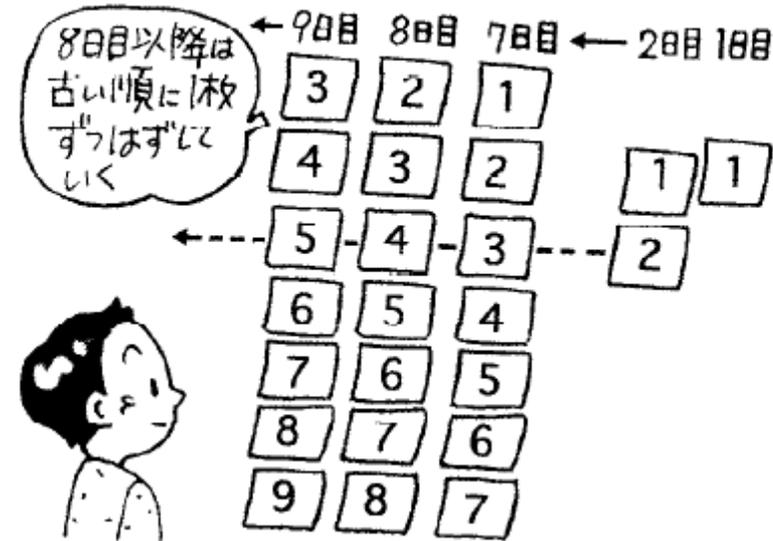
そこで、無理なく反復して、しっかりと漢字を身につけていくためには、次のような方法をおすすめします。

まず一日目は、新しい漢字カードを一枚だけ見せ、たとえば「これは猫っていう字よ」というように、お母さんがはっきりとした声で読んであげ「じゃあ、お母さんの後に続けて読んでみてね」と子どもにも声を出して読ませます。このとき、カードを見せる時間は、ほんの数秒で十分です。あまり長い時間をかけると、かえって集中力が散漫になり記憶に残りにくくなります。

二日目は、まず前の日のカードを見せて「これは何ていう字？」と

聞きます。もし正しく読めたら「よく読めたね」と誉めてあげてから、「じゃあ、今日ももう一つ新しい字を覚えようか」と言って前日と同じ要領で新しいカードを見せます。

そして三日目には、はじめに前日、前々日にやった二枚のカード



1週間で1字卒業し1字増やす

の読みを尋ね、読めたら新しいカードをもう一枚というように、一枚ずつ新しいカードを増やして

いくのです。

すると順調にいった場合、七日日には「これ何ていう字？」と質問するカード六枚、新しく覚えるカードが一枚、という状態になります。そうしたら八日目以降は、毎日いちばん古いカードを一枚ずつはずし、前日と同じく質問するカードが六枚、新しく覚えるカードが一枚という状態を続けていきます。つまり、新しい漢字を一日目で覚え、六日間くり返し読んだら、それで一字“卒業”となるわけです。

もし前日までにやった漢字を読めなくても、「昨日、やったばかりじゃない」「何で読めないの」などと決してお子さんを責めたり、がっかりした表情を見せないようにしてください。これは、何字覚えだからえらい、というような競争ではありませんし、何よりお母さんに叱られたために漢字嫌いになっては元も子もありません。読めない漢字があれば、いつまでも子どもに考えさせるのではなく、もう一度、はじめて見せる漢字と同じように「これは、　　という字よ」とやさしく教えてあげましょう。このようなときは、新しい漢字は教えなくてかまいません。